



北海道鹿追町 鹿追町

地域内バイオマス(有機物資源)を有効活用した安心安全な農作物の生産と、環境負荷の少ない循環型農業の確立



鹿追町環境保全センターの全景。約5.2ヘクタールの中にバイオガスプラント、堆肥化プラント、コンポスト化プラントがある。

事例の概要

鹿追町は、十勝平野の北西に位置し、農業と観光を基幹産業とする農村地帯である。主産業の酪農業の1戸あたりの飼養頭数が年々増加しており、それに伴う家畜排せつ物の処理が課題となっていた。

そこで、家畜排せつ物や農業残さなどの廃棄物をバイオマス資源として再び利活用することを目的に平成18年にバイオマстаウン構想を策定した。

バイオガスプラント、堆肥化プラントなどを擁する鹿追町環境保全センターを平成19年10月から稼働し、バイオマスマネジメントの活用と液肥(消化液)、堆肥を有効な有機肥料として利用を推進してきた。

その結果、市街地での悪臭が激減し、消化液・堆肥の畑地への散布により、作物収量が増加し、経営の安定化が図られている。

また、家畜排せつ物の処理だけでなく、処理の過程で発生するバイオガスを温室ハウスでのイチゴ栽培や自動車の稼働などに利活用しようするため研究や、環境教育などの活動も行っている。



貯留槽の消化液を散布車が汲み上げているところ。この後、農地へ散布する。



家畜ふん尿の処理過程で発生するバイオガスを燃焼し発電する。2台で300kwの能力で発電したエネルギーは施設内で利用し、余剰分は売電している。



ふん尿処理過程で発生する消化液等を酪農家に還元することで環境に優しい地域内自然循環を確立させている。



福島県飯館村の小学生が夏休みを利用して鹿追町を訪問した際に、環境について学んだ。平成23年1月に研修棟が完成し、環境学習や企業の研修等にも利用されている。



評価のポイント

鹿追町は、酪農を主とする農業産業の効率化、大型化に伴って家畜排せつ物の処理が課題となっていた。花と芝生の街づくりやグリーンツーリズムの取組を通して観光客が増加する中、畜産農家が家畜排せつ物を肥料として散布することで発生する異臭問題は深刻で、市街地を中心に適切な処理を望む声が高まっていた。

そこで、鹿追町は平成18年に「バイオマстаウン構想」を策定し、平成19年から「鹿追町環境保全センター」を稼働。地域内から出る家畜のふん尿や生ごみを回収し、集中的に処理することで、市街地の異臭を軽減し、農業と観光業を両立させることに成功している。

また、同センターでのふん尿の処理の過程で発生するバイオガスや消化液を畜産農家や耕種農家に還元することで環境に優しい地域内資源循環型農業の実現を目指している。

施設への収集運搬と処理の委託が、畜産農家の負担軽減や生産効率の上昇につながり、若い世代の農業回帰の動きも見られ、過疎の解消にも効果的に作用しており、地域産業の振興による地域の自立に向けたモデルケースとなる事例である。

本事例においては、このような点が評価された。



北海道 鹿追町(しかおいちょう)

【団体名】鹿追町
【所在地】〒081-0292 北海道河東郡鹿追町東町1丁目15番地
【連絡先】TEL:0156-66-2311(代表) FAX:0156-66-1020
URL: <http://www.town.shikaoi.lg.jp>

【交通のご案内】

- 自動車** ●道東自動車道十勝清水ICから国道274号経由30分
- 鉄道** ●JR石勝線新得駅からバス30分
- 飛行機** ●とかち帯広空港から自動車1時間10分

国勢調査人口(単位:人)

昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年
10,448	6,744	5,910	5,876	5,702

人口増減率(単位:%)

H17/S35	H17/S55	H17/H12	H22/H17
-43.8	-12.9	-0.6	-3.0

高齢者・若年者比率(H22年)(単位:%)

高齢者比率	25.9	若年者比率	13.9

